

2016年10月3日(月)

神奈川新聞 教育面掲載

ザ・チャレンジ

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

10月となりました。大学入試センター試験の出願も終え、本年度も本格的な受験シーズンが到来します。多くの受験生は、志望校合格へ向けた対策に一層励んでいることと思います。

その一方で、一足早く「推薦・AO入試」によって大学進学を決める生徒が増えてくるのもこの時期です。これまでの学習の積み重ねやさまざまな活動実績、志望校への入学意欲のアピールなどによって、一般受験よりも約半年早く進学先を決定できることは非常に魅力的です。

しかし、ここからの半年をどう有効活用するかによって、今後の大学での学習に大きな影響を及ぼすことは間違いありません。今回はそのことについて考えてみたいと思います。

特に大きく影響するのは、「学習習慣」でしょう。今まで継続的にしてきた勉強が、大学合格が決まると同時に途切れてしま

う、というケースは少なくありません。

そもそも大学は自分が興味・関心のある分野を専門的に学ぶ場所です。高校での学習はその土台になっているので、ここで習慣が途切れてしまうと継続的に学習をして一般入試で合格した生徒と、かなり土台に差がついてしまうことが考えられます。

そのために近年、推薦・AO入試で合格した生徒に対して、大学側から課題が課されることが増えています。冊子形式の課題や読書感想文、映像授業による補習授業もあれば、あるいはセンター試験の受験を必須としている場合もあります。課された課題には真剣に取り組み、大学入学後のより良い学習のために、習慣を絶やさないようにしてください。

また、このような大学から課される課題以外にも、自分自身で新たなチャレンジすることをオススメします。英検や漢検、T.O.E.I.Cに代表される資格にチャレンジ

Q. 推薦入試合格後の過ごし方は？

をする。あるいは教養を深めるために新書や専門書を読んでもみるなど、さまざまなことができると思います。入学後にT.O.E.I.Cの試験を最初に課す大学も増えていきますし、またその後の進級条件になっていたり、就職活動時に企業から一定水準を求められたりすることもあります。

大学は「与えられた勉強」をする場所ではなく、自ら「求める勉強」をする場所です。ただ受け身になって入学を待つのではなく、この半年を好機と捉え、「自己投資」をして成長を促すことが今後の大学生活のより一層の充実につながるのではないのでしょうか。(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な「学び」の情報を紹介。今回は小学校受験編。

A. 半年間の「自己投資」で成長を



東進TIMES 10.1号

今月号では、受験生のセンター試験までの各科目の伸びを分析